



## 2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月14日

上場会社名 株式会社RVH 上場取引所 東  
 コード番号 6786 URL <https://rvh.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 沼田 英也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 益田 倫孝 TEL 03-4579-9755  
 四半期報告書提出予定日 2018年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	30,487	14.0	674	△66.3	△865	—	△816	—
2018年3月期第2四半期	26,734	27.3	1,999	—	360	△81.6	436	△79.0

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

	税金等調整前 四半期純利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益		1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	△1,278	—	△1,606	—	△83.12	—
2018年3月期第2四半期	381	△81.5	△262	—	△15.52	—

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 △1,606百万円 (—%) 2018年3月期第2四半期 △261百万円 (—%)

	自己資本 四半期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	%	%	%
2019年3月期第2四半期	△14.1	△1.0	△2.8
2018年3月期第2四半期	△2.5	0.6	1.3

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第2四半期	80,881	10,642	13.1	549.54
2018年3月期	79,264	12,225	15.4	632.44

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 10,622百万円 2018年3月期 12,225百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年3月期	—	0.00	—	—	—
2019年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2019年3月期の連結業績予想につきましては、本日公表いたしました「特別損失（貸倒引当金繰入額）の計上に関するお知らせ」及びその他要因を含め精査中であり、グループ各社の直近の業況を踏まえた予想を策定次第、改めて公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	19,330,560株	2018年3月期	19,330,560株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	600株	2018年3月期	600株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	19,329,960株	2018年3月期2Q	16,885,741株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	5
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	12
(会計方針の変更) .....	12
(会計上の見積りの変更) .....	12
(追加情報) .....	12
(セグメント情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。近隣諸国の地政学リスクの高まりや諸外国間の通商問題による影響が懸念されるほか、国内各地で相次いで発生した自然災害の影響もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社の主たる事業領域である美容エステティック業界におきましては、近年の市場規模が概ね横ばいで推移する一方、理美容やリラクゼーション、その他周辺美容サービスや一般流通の化粧品市場、美容家電、フィットネスジム等の異業種とも競合するなど、競争の激化に加え、労働需給の引き締めや相次いで発生した自然災害の影響などにより、厳しい経営環境となりました。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高30,487百万円（前年同期比14.0%増）、EBITDA674百万円（前年同期比66.3%減）、営業損失865百万円（前年同期は営業利益360百万円）、経常損失816百万円（前年同期は経常利益436百万円）、税金等調整前四半期純損失1,278百万円（前年同期は税金等調整前四半期純利益381百万円）となり、法人税等合計327百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失1,606百万円（前年同期は262百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、法人税等合計327百万円の内、法人税等調整額は196百万円であります。これは主に、ミュゼプラチナム社における旧会社からの事業譲受により生じた税務上ののれんにつき、税務上の損金算入額に応じて、対応する繰延税金資産を取り崩している影響によるものであります。

	報告セグメント						調整額		四半期 連結損益計算書 計上額	
	レディスサービス		メディア・コンサル ルティン		システム開発					
	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
セグメント売上高	27,669	14.4	4,076	△5.4	518	0.4	△1,776	—	30,487	14.0
セグメント損益	△908	—	5	△96.2	△5	—	42	—	△865	—
(参考) EBITDA	579	△67.5	46	△75.2	2	△75.7	45	—	674	△66.3

※1 セグメント売上高には、内部売上高を含めております。

※2 セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

※3 EBITDA=セグメント損益+減価償却費+のれん償却額

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来「美容」としていた報告セグメントの名称を「レディスサービス」に変更しています。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しています。

## 1) レディスサービス事業

## &lt;美容脱毛部門&gt;

ミュゼプラチナムブランドは、より効率的な店舗運営を行うため、前連結会計年度より実施してまいりました店舗開発計画により店舗統廃合フェーズから出店フェーズへ移行し、当第2四半期連結会計期間においては「アピタ福井大和田店」、「鳥取トリニティモール店」の2店舗を福井県、鳥取県それぞれに初出店いたしました。一方で、兵庫県内の1店舗を閉店し、店舗数は174店舗（前年同期末は178店舗）となりました。また、当第2四半期連結会計期間に相次いで発生した豪雨・台風、地震等の影響により、一部の店舗及びコールセンターにおいて営業時間の短縮や数日間の臨時休業が発生いたしました。これらの結果、施術売上高は前年同期比91.3%と減少傾向で推移したものの、物販売上高は、前第3四半期連結会計期間から開始した美容脱毛コースと併せた自社ブランド化粧品の販売や定期購入プランにより、引き続き前年同期比202.1%と好調に推移いたしました。

コローブランドは、引き続き新規顧客を獲得するための広告宣伝投資を実施し、契約獲得高は前年同期比603.9%と好調に推移いたしました。顧客契約の増加に伴う施術来店増により、施術売上高についても緩やかに増加したほか、第1四半期連結会計期間より開始した特典付き会員制度に加え、美容脱毛コースと併せた自社ブランド化粧品の販売を開始し、ブランド売上高は前年同期比294.0%と好調に推移いたしました。また、上述の広告宣伝費増加等により販管費は同186.2%、ブランド利益は前年同期を下回り推移いたしました。

マキアブランドでは、引き続き将来に向けた収益力向上のための出店強化に努め、当第2四半期連結会計期間では新たに20店舗の出店を行いました。これにより売上高は148.3%で推移いたしましたが、新規出店に伴い一時的に研修等の人件費及び費用が増加したこと等により販管費は同179.2%で推移いたしました。

#### <エステティック部門>

たかの友梨ビューティクリニックブランドは、安定的な人材確保のための採用活動及び人事施策の強化に取り組むとともに、前連結会計年度に引き続き店舗統廃合を進め、当第2四半期連結会計期間においては2店舗の閉店、「新宿本店」のリニューアルオープンを実施し店舗数は88店舗（前年同期末は91店舗）となりました。これらの結果、契約獲得高は前年同期比96.2%、施術売上高は同86.3%となりましたが、物販等売上高は109.7%と堅調に推移いたしました。また、商品管理の徹底による原価抑制、広告宣伝費等のコスト削減を実施した結果、販管費は前年同期比93.8%、ブランド利益は前年同期及び第1四半期連結会計期間から改善いたしました。

#### <アパレル部門>

前連結会計年度末に子会社化した株式会社ラブリークィーンにより、引き続きブラックフォーマル、カラーフォーマルを中心としたレディスウェアの企画・デザイン・製造・販売を行いました。当第2四半期連結会計期間においては、今後の収益力向上を目指した施策として、取扱店舗増加のための営業活動の強化及びECサイト再構築、レディスビジネスウェアの新ブランド「ES by soshe」のリリース等を実施いたしました。一方、2018年9月の台風被害の影響により物流の遅延が発生したこと等から、当第2四半期連結会計期間の収益は予算を下回り推移いたしました。

これらの結果、売上高27,669百万円（前年同期比14.4%増）、EBITDA579百万円（前年同期比67.5%減）、セグメント損失908百万円（前年同期はセグメント利益194百万円）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、株式会社ラブリークィーンの損益を四半期連結損益計算書に含めておりません。

#### 2) メディア・コンサルティング事業

コンサルティング部門においては、引き続き外部顧客向けマーケティングサービス及びグループ内WEB広告サービス等が順調に推移いたしました。

広告代理店部門においては、新たな収益基盤構築に向けて債務整理やB型肝炎、相続・遺言、交通事故等に関する広告案件の獲得に取り組んだ一方、過払金広告案件の縮小及びこれに伴う貸倒引当金を計上いたしました。

これらの結果、売上高は4,076百万円（前年同期比5.4%減）、EBITDA46百万円（前年同期比75.2%減）、セグメント利益5百万円（前年同期比96.2%減）となりました。

#### 3) システム開発事業

システム開発事業は、例年同様下期偏重傾向の収益推移が見込まれるものの、中長期的な収益獲得に向けた採用強化による人件費増加、医用画像表示ソフトウェア「FVT-air」の更改に伴う一時費用の増加等により、販管費が増加傾向で推移いたしました。

これらの結果、売上高518百万円（前年同期比0.4%増）、EBITDA2百万円（前年同期比75.7%減）、セグメント損失5百万円（前年同期はセグメント損失0百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末において、資産、負債及び純資産は以下の通りとなりました。また、各増減要因は後述の通りであります。なお、勘定科目の名称を一部省略して記載したほか、増減要因は主なものに限定して記載しております。

また、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
資産	79,264	80,881	1,617	2.0
負債	67,039	70,239	3,199	4.8
純資産	12,225	10,642	△1,582	△12.9

## (資産の部)

	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
流動資産	29,052	30,539	1,487	① 現金及び預金	△3,600	通常支出、自社ローン取扱の増加
				② 受取手形及び 売掛金	3,685	美容サービス契約獲得の増加
				③ 商品及び製品	404	物品売上増に伴う商品の増加
固定資産	50,212	50,342	129	—	—	—

## (負債の部)

	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
流動負債	50,702	53,880	3,177	① 前受金	2,934	美容サービス契約獲得の増加
				② 未払金	682	広告出稿増加に伴う仕入債務増加
固定負債	16,336	16,358	22	—	—	—

## (純資産の部)

	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
株主資本合計	12,224	10,621	△1,602	① 利益剰余金	△1,606	親会社株主に帰属する四半期純損失の計上
その他の包括利益累計額	0	1	0	① その他有価証券評価差額金	0	—

## (3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物については、以下の通りとなりました。

(現金及び現金同等物)

	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額
	百万円	百万円	百万円
現金及び現金同等物	4,380	1,616	△2,764

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

	2017年 9月累計	2018年 9月累計	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
営業活動による キャッシュ・フロー	3,839	△2,867	△6,707	①	税金等調整前四半期純損失	△1,278
				②	売上債権の増加	△3,685
				③	事業譲受対価の見直しに伴う債権債務の増減額	△1,795
				④	前受金の増加	2,934

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

	2017年 9月累計	2018年 9月累計	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
投資活動による キャッシュ・フロー	△284	95	380	①	有形固定資産の取得による支出	△610
				②	定期預金の増減額	835

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

	2017年 9月累計	2018年 9月累計	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
財務活動による キャッシュ・フロー	△857	7	864	①	短期借入金による純増減額	△279
				②	長期借入れによる収入	510
				③	長期借入金の返済による支出	△200

## (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の連結業績予想につきましては、本日公表いたしました「特別損失（貸倒引当金繰入額）の計上に関するお知らせ」及びその他要因を含め精査中であり、グループ各社の直近の業況を踏まえた予想を策定次第、改めて公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	5,531	1,931
受取手形及び売掛金	11,973	15,658
商品及び製品	2,353	2,758
仕掛品	165	139
原材料及び貯蔵品	523	645
未収入金	7,196	7,848
短期貸付金	551	934
その他	1,319	1,861
貸倒引当金	△562	△1,237
流動資産合計	29,052	30,539
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	9,413	9,288
<b>無形固定資産</b>		
のれん	25,728	26,007
その他	513	495
無形固定資産合計	26,242	26,502
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,632	1,636
長期貸付金	952	709
繰延税金資産	7,940	8,364
その他	4,368	4,177
貸倒引当金	△337	△337
投資その他の資産合計	14,557	14,550
固定資産合計	50,212	50,342
資産合計	79,264	80,881



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,865	2,168
短期借入金	623	343
1年内返済予定の長期借入金	194	201
未払金	3,076	3,758
未払法人税等	55	57
前受金	39,379	42,313
賞与引当金	358	354
返品調整引当金	171	222
ポイント引当金	29	37
その他	4,948	4,423
流動負債合計	50,702	53,880
固定負債		
長期借入金	216	505
長期預り金	15,772	15,518
退職給付に係る負債	219	218
その他	128	115
固定負債合計	16,336	16,358
負債合計	67,039	70,239
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,678	1,678
資本剰余金	7,516	7,520
利益剰余金	3,029	1,422
自己株式	△0	△0
株主資本合計	12,224	10,621
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	1
その他の包括利益累計額合計	0	1
非支配株主持分	—	19
純資産合計	12,225	10,642
負債純資産合計	79,264	80,881

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	26,734	30,487
売上原価	4,445	5,609
売上総利益	22,289	24,878
返品調整引当金戻入額	—	369
返品調整引当金繰入額	—	420
差引売上総利益	22,289	24,827
販売費及び一般管理費	21,928	25,693
営業利益又は営業損失(△)	360	△865
営業外収益		
受取利息	14	79
受取配当金	2	7
受取補償金	—	7
受取賃貸料	15	14
業務受託料	47	4
還付加算金	11	0
その他	23	35
営業外収益合計	114	149
営業外費用		
支払利息	28	18
貸倒引当金繰入額	—	80
その他	9	1
営業外費用合計	38	100
経常利益又は経常損失(△)	436	△816
特別利益		
固定資産売却益	3	1
特別利益合計	3	1
特別損失		
固定資産除却損	3	20
寄付金	16	—
減損損失	31	32
貸倒引当金繰入額	—	405
その他	7	4
特別損失合計	58	463
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	381	△1,278
法人税、住民税及び事業税	85	54
過年度法人税等	—	76
法人税等調整額	557	196
法人税等合計	643	327
四半期純損失(△)	△262	△1,606
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△262	△1,606

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純損失(△)	△262	△1,606
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益合計	0	0
四半期包括利益	△261	△1,606
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△261	△1,606
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	381	△1,278
減価償却費	758	644
のれん償却額	880	895
その他の償却額	75	64
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△15	675
賞与引当金の増減額(△は減少)	136	△3
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△5	△0
返品調整引当金の増減額(△は減少)	—	50
受取利息及び受取配当金	△16	△86
支払利息	28	18
減損損失	31	32
売上債権の増減額(△は増加)	△436	△3,685
たな卸資産の増減額(△は増加)	△209	△501
前払費用の増減額(△は増加)	△61	△341
立替金の増減額(△は増加)	329	△3
未収入金の増減額(△は増加)	446	△651
仕入債務の増減額(△は減少)	△705	301
未払金の増減額(△は減少)	598	819
前受金の増減額(△は減少)	6,159	2,934
未払費用の増減額(△は減少)	102	284
預り金の増減額(△は減少)	△305	△655
事業譲受対価の見直しに伴う債権債務の増減額	△4,488	△1,795
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△66	△250
その他の流動負債の増減額(△は減少)	191	△413
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△1	4
その他	△4	78
小計	3,804	△2,863
利息及び配当金の受取額	13	68
利息の支払額	△29	△17
取引先支援金の支払額	△448	—
法人税等の支払額	△89	△121
法人税等の還付額	589	65
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,839	△2,867
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	△38	835
有形固定資産の取得による支出	△666	△610
無形固定資産の取得による支出	△69	△55
貸付けによる支出	△260	△415
貸付金の回収による収入	85	101
敷金及び保証金の差入による支出	△69	△125
敷金及び保証金の回収による収入	591	222
長期貸付けによる支出	—	△4
長期貸付金の回収による収入	121	178
関係会社株式の売却による収入	—	0
関係会社株式の取得による支出	—	△30
その他	21	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△284	95

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△601	△279
長期借入れによる収入	40	510
長期借入金の返済による支出	△63	△200
割賦債務の返済による支出	△129	△38
リース債務の返済による支出	△4	△8
自己株式の取得による支出	△98	—
非支配株主からの払込みによる収入	—	25
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△857</b>	<b>7</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,698	△2,764
現金及び現金同等物の期首残高	2,919	4,380
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,617	1,616

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レディスサー ビス	メディア・コ ンサルティン グ	システム開発	計		
売上高						
外部顧客への売上高	24,191	2,045	497	26,734	—	26,734
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	2,264	18	2,283	△2,283	—
計	24,191	4,309	516	29,017	△2,283	26,734
セグメント利益又は損失 (△)	194	146	△0	340	20	360

(注) 1. セグメント損益の調整額20百万円には、セグメント間取引消去119百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△99百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「レディスサービス」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第2四半期連結累計期間において、のれんが2,933百万円増加しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レディスサー ビス	メディア・コ ンサルティン グ	システム開発	計		
売上高						
外部顧客への売上高	27,659	2,332	494	30,487	—	30,487
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9	1,743	23	1,776	△1,776	—
計	27,669	4,076	518	32,264	△1,776	30,487
セグメント利益又は損失 (△)	△908	5	△5	△908	42	△865

(注) 1. セグメント損益の調整額42百万円には、セグメント間取引消去150百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△107百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「レディスサービス」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第2四半期連結累計期間において、のれんが1,174百万円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの名称変更)

第1四半期連結会計期間より、従来「美容」セグメントとしていた報告セグメントの名称を「レディスサービス」セグメントに変更しています。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。